

## 四国のツキノワグマを守れ！ —50年後に100頭プロジェクト—

活動地域  四国

ひろげる助成

3年目

調査研究

新たな分布域

5メッシュ

総括シンポジウム  
参加者

188人

今年度計画の達成度

80%

目標達成度

80%



自動撮影装置で撮影されたツキノワグマ

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

現地調査では、道の悪い奥山へのアクセス、高温多湿の中の資材運びなどに苦戦した。聞き取り調査ではクマへの関心が薄く、保護推進派として警戒されたこともあった。

#### ■ 工夫した点

会員ネットワークをいかして山歩き経験豊富なメンバーが全国から参集した。様々な立場の個人や団体・企業との交流により関心を寄せてくれる人が増えた。

### 課題

四国に生息するツキノワグマは数十頭以下と推定される。しかし、生息数の増加は認められず、住民の保全意識が十分に高くはない。

### 目標

- ① 四国のツキノワグマの生息の現状が明らかになる
- ② 四国の人々のツキノワグマの保護への意識が向上する

### 活動内容と成果

- ① 生息地について新たに5メッシュ確認した。ただし新規最低確認個体は1頭であり、分布範囲・生息数ともに想像の範囲を超える情報は得られなかった
- ② ポスター、チラシ、冊子への記事掲載、ブース出展など様々な方法で普及啓発を実施した。現状の認知は拡大しつつあるが、生息地域の保護意識向上はまだ不十分である
- ③ 積極的保護策について生息環境の保全と給餌、域外保全について検討し具体的提案をまとめた
- ④ シンポジウム後援には多数の地元団体に加わっていただき、また連携機関も増加した



のいち動物園に貸し出したトランクキット

### 全助成期間の活動を振り返って

広域現地調査により四国のツキノワグマの厳しい現状を明らかにすることができた。聞き取り調査により、地域にとってツキノワグマは他人事であり、その保護は不安や負担を増やす要素でしかないと認識されていることが浮き彫りになった。現状を打破するためには給餌や域外保全など積極的保護策が不可欠であるが、地域の合意なしに保護を進めることも困難である。普及啓発を進めることと同時に、行政主体の保護プロジェクトの推進に期待したい。



東京で開催したシンポジウムの様子

〒060-0818  
北海道札幌市北区北18条西9丁目 北海道大学獣医学部内  
電話：011-706-7188  
E-mail：shimozuru@vetmed.hokudai.ac.jp  
HP：http://www.japanbear.org



### 今後の展望

生息地域における普及啓発の取組みや、地域で暮らす方々にとってプラスになるような取組みを行う必要がある。そのためには、地域に拠点を形成して地域で様々な活動をする人材を配置する必要があるだろう。今後は四国で活動を推進する団体を中心にボトムアップの活動を行い、当団体はその支援や専門家としての助言などで貢献したい。また活動成果をまとめた報告書と行政提言を行うことでトップダウンの対策推進を支援する。